



32 風景 中澤弘光

一面

明治四十五年（一九一〇）

油彩・キャンバス

四五・〇×六〇・〇

画面を大きく占めるのはなだらかな丘陵で、その頂上付近に三本の木が見え、左前景には松の枝が描かれている。朝日が丘の上に昇る直前の時間帯であるのか、丘の右向こうに見える空は強い光に包まれ、その光が斜面の草の色と溶け合うように描かれている。一方、陰となる丘の反対面はまだほの暗いままだ。筆触の長短、強弱、かすれなどを駆使しつつ、光が差し込んで刻々と移り変わる風景の変化をとらえようとしている点に、印象派の影響を感じさせる作品である。

場所を特定させないモチーフであるが、明治四十二年（一九〇九）の第三回文展に出品した《おもいで》（東京国立近代美術館蔵）で光明皇后の法華寺建立の伝説を取り上げるなど、中澤は仏教を主要なテーマとした作品に取り組み奈良でスケッチすることが多かったため、そのなだらかな山容から若草山での写生をもとに制作したのではないかと推測される。秩父宮家の旧蔵品であったという伝来のほか詳細はわかっていないものの、画中に記された年記から一九一二年に描かれた作品であることは確かだ、この年の三月には光風会が結成されている。そして、同年六月の光風会第一回展に中澤が出品した《春の若草山》は、宮内省買上となっており、これが本作にあたる可能性が高い。

中澤弘光（一八七四―一九六四）は曾山幸彦の画塾への入門から画家としての修業を始め、二十二歳で東京美術学校へ入学し、黒田清輝に師事した。ちょうど白馬会が結成された年に当たり、中澤はその後、光風会、白日会と、主要な団体の結成にも関わり、洋画壇の中心的な画家の一人であった。昭和九年（一九三四）には石井柏亭らと、風景美の破壊や浸食からの保存、擁護運動、文化的、保健利用の調査研究および紹介を目的とする風景協会を結成、同十九年に帝室技芸員に任命された。

- ・各展覧会図録中，作品名や作者，制作年などの表記は，図録発行当時のものです。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録の著作権はすべて宮内庁に属し，本ファイルを改変，再配布するなどの行為は有償・無償を問わずできません。
- ・三の丸尚蔵館の展覧会図録（PDF ファイル）に掲載された文章や図版を利用する場合は，書籍と同様に出版・放送・ウェブサイト・研究資料などに使用する場合は，宮内庁ホームページに記載している「三の丸尚蔵館収蔵作品等の写真使用について」のとおり手続きを行ってください。なお，図版を営利目的の販売品や広告，また個人的な目的等で使用することはできません。

名所絵から風景画へ——情景との対話

三の丸尚蔵館展覧会図録 No. 76

編集 宮内庁三の丸尚蔵館
制作 株式会社 東京美術
翻訳 黒川廣子
発行 宮内庁
平成二十九年三月二十五日発行

© 2017, The Museum of the Imperial Collections, Sanjōmaru Shōzōkan